

■科目名			
LD・ADHD等教育総論			
Educating children with LD and/or ADHD			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
1	5期		前
■担当教員			
片岡 美華			
■代表教員名及び連絡先等			
kataoka@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
木曜日14:45～15:45（質問は随時受付）			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
【目的】 通常学校に在籍する、特別な教育的ニーズをもつ子どもたちが経験する困難を、その背景にある障害特性との関係で理解し、支援する視点と方法を身につける。特に、LDとADHDに焦点を当てて概説する。 【内容】 はじめに障害理解のための視点を示した上で、LD・ADHDを中心に、発達障害の定義と障害特性、および教育上のニーズと支援について、それぞれ概説する。授業を理解しやすいように、適宜、視聴覚教材を用いて具体的に説明を行う。			
■授業の到達目標及びテーマ			
【授業の到達目標】 1) 発達障害を理解するための視点がわかり、説明できる 2) LDの障害特性を理解しており、支援方法を考える手だてがわかる 3) ADHDの障害特性を理解しており、支援方法を考える手だてがわかる 【テーマ】 1) 通常学校における特別な教育的ニーズがある子どもの理解 2) LD・ADHDの障害特性とその支援			
■授業計画			
*進み具合により変更する場合があります。 1. 発達障害と特別支援教育における対応のあり方 2. 認知機能の諸相とその障害（障害特性） 3. 学習障害（LD）の定義と教育上のニーズ 4. 注意欠如多動性障害（ADHD）の定義と教育上のニーズ 5. ユニバーサルデザイン教育 6. 障害特性に応じた支援の方法1-学習面の困難に対する支援の方法 7. 障害特性に応じた支援の方法2-行動面の困難に対する支援の方法 8. まとめとLD・ADHD研究の到達点/試験			
■授業外学習（予習・復習）			
予習では、LDやADHD関連の書籍を読んでおくこと。 復習では、授業で学んだことを中心に、与えられた課題に沿ってミニレポートにまとめること。授業で紹介された参考図書を読んだり、YouTubeを見たりして内容を深めること。 復習を中心に学習を行い、用語や考え方の整理を行うとともに、自らの考えをミニレポートにあらわすこと（目安：90～120分程度）			
■受講要件			
発達障害の一つである「アスペルガー障害」については、後半の「自閉症児等教育総論」で扱うため、両講義をセットで履修することを原則とする。			
■成績の評価基準			
授業中に課すミニレポート（30％）の内容と、最終課題（試験）（70％）により総合的に評価する。ミニレポートの提出をもって、出席確認とする。規定回数以上欠席した場合は、試験の受験資格がなくなるので注意すること。			

試験は、持ち込み可の記述式による。

＊レポートの提出、記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、事前相談に来ること。

■教科書・参考書

参考書：上野一彦・花熊暁（編）『軽度発達障害の教育：LD・ADHD・高機能PDD等への特別支援』日本文化科学社

ほか、随時示す

■教師としての資質能力に関するチェック項目

3. 教育方法に関する理解

【A教職の理解】教育方法の理論に関する理解を深め、複式指導や少人数指導、教材開発や活用、授業分析など、指導法や授業改善について理解している

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など、子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており、それらを生かして子どもの発達を分析することができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており、それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

12. 学級経営に関する構想力

【D構想力、展開力、評価力等】学級経営の在り方に関する基礎的な知識を身に付けており、学級等の集団及び集団と個のかかわりなどについて構想することができる

13. 生徒指導に関する構想力

【D構想力、展開力、評価力等】個々人の発達課題の把握や問題行動及びその対応等の理解を深めるとともに、積極的な生徒指導の在り方について構想することができる

16. 情報収集力、分析力、活用力

【D構想力、展開力、評価力等】情報を収集し、整理・分析することを通して、その情報を活用していくことができる

アクティブ・ラーニング

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

その他；

アクティブ・ラーニング（その他）

事例の分析を行う

アクティブ・ラーニング（授業回数）

7回中6回

■実務経験のある教員による実践的授業

特別支援教育士ならびに臨床発達心理士として行っている臨床経験を事例研究に盛り込むなどして、現場での課題を身近に感じ、検討できる力を養成する。

■その他

対面授業とリアルタイム遠隔授業のブレンド型授業を想定しています。授業の進め方は状況により変更することがあります。